

発表演題：外傷にて歯根破折後インプラントにて審美的に修復した1例

著者名：川端秀男

抄録：

患者は初診時20歳、男性

自転車にて走行中、自動車と接触し受傷。救急センターでの応急処置後、歯冠修復のため来院。コア形成時に破折を認め保存不可と判断、抜歯後インプラント処置を予定した。

抜歯と同時にバイオスにてソケットプリザベーションを行い、抜歯窩の治癒を待ち、フィクスチャーの埋入を行った。その際、唇側に頤から採取したブロック骨を移植し、母骨との間隙にはバイオスを填塞し移行的にした。その後、2次手術、印象採得を行い、ジルコニアクラウンを装着した。